

菅生沼のハクチョウについて

水海道あすなろの里の里山探検で、お手伝いをいただいているハクチョウに詳しい常総みどりの会の井上純一さんに菅生沼のハクチョウについて聞いてみました



井上 純一 いのうえ じゅんいち
坂東市在住。20年以上菅生沼で
ハクチョウの記録している
あすなろの里の探検では
おなじみ、例の迷彩服の人



坂入 真史 さかいり まさし
水海道あすなろの里
自然教室事業担当



井上さん、こんにちは。

現在、菅生沼のハクチョウの飛来数はおおよそ何羽になりますでしょうか？また、この後は増えますか？？

2月11日（※インタビュー時）350羽で、ほぼ平年並みと思います。
2月も中旬になると、北からの飛来は無くなりますが、千葉県印西市、夏目の堰（せき）から北帰行（ほっきこう）の休憩（きゅうけい）地点として、立ちよるハクチョウが増えて来ます。
数日間の滞在ですが、さらに100羽から200羽増える見込みです。



千葉県といえば印西市のハクチョウの郷（さと）も飛来地としては有名ですね。なるほど…。日本をはなれ、ふるさとに帰るときそのハクチョウたちが茨城県にたちよって合流するわけですね。

〔井上メモ〕夏目の堰（せき）は、千葉県印西市の本埜（もとの）から約40km東。太平洋間近にあります。
千葉県最大の飛来地で、2006年以来ハクチョウの数が増えつづけ、今では1,000羽～1500羽にもなっています。



『ハクチョウ探検2022』にて菅生沼に飛来するハクチョウは、主に『コハクチョウ』・『オオハクチョウ』の2種類だということを観察しましたがそれぞれ、どのくらいの数が飛来しますか？

今シーズンは、オオハクチョウがおおよそ30羽。
コハクチョウは、350羽から30を引いた320羽です。



なるほど…。体が大きなオオハクチョウは少なく、菅生沼にいる300羽をこえるハクチョウのほとんどは、コハクチョウということですね。2種類とも一緒にいますが、からだの大きさが異（こと）なるということは、本来は、エサをとらえる環境や生活できる環境も異（こと）なるのかもしれませんがね。



コハクチョウ



オオハクチョウ

〔井上メモ〕コハクチョウのほうが、くちばしの黄色部分が少ないですね。形も、オオハクチョウのほうがするどくみえますね。オオハクチョウのくちばしに灰色が混じって見えるのは、幼鳥から、成鳥になる途中だということがわかります。



去年の10月から観察していると、もうずいぶんとハクチョウを観察している気がします。今月末にはいよいよ北帰行（ほっきこう）のためいよいよ母国のシベリアへ帰るタイミングになると思います。いつまでハクチョウは観察できますか？



平年並みですと2月下旬から3月上旬が北帰行になりますので、北の雪がもう少し続くと遅れるかも知れません。

（いつまで観察できるかについて）こればかりは、ハクチョウに聞く術（すべ）もありませんので…。2月中でしたら数は別として観察できると思いますよ！



【井上メモ】北帰行（ほっきこう）とは、ハクチョウのような渡り鳥たちが、春に温暖（おんだん）な地域をはなれて北の繁殖地（はんしょくち）へ移動すること。



最後に、井上さんにとってハクチョウの魅力(みりょく)は何でしょうか？おとずれる人に何を感じてほしいですか？

ハクチョウの家族愛ですね。ツガイは生涯添い遂げ(しょうがいそいとげ)、数十年と言われる寿命も多くは繁殖(はんしょく)と子育てになります。行動もツガイや家族ごとで行い、決して迷子にはしませんし、見捨てもしません。大きいせいもありますが、その動きまた飛翔(ひしょう)も含め、其々仲睦(それぞれなかむつ)まじく動く様は人間社会以上に絆(きずな)を感じます。



ハクチョウは、3月上旬ごろまで、菅生沼ふれあい広場で観察することができます。菅生沼ふれあい広場までの地図をあすなろの里でもお渡ししています。ハクチョウたちには、エサをあげず、静かに観察しましょう。